

第4章 ファイルとフォルダー1

- ✓ ファイルとは何かを理解する
- ✓ フォルダーとは何かを理解する
- ✓ ドライブとは何かを理解する
- ✓ エクスプローラーの使い方
- ✓ ファイル名と拡張子

1. ファイル

アプリケーションソフトで作成した情報(例えば、Wordで作成した文書や、ペイントで作成した絵など)は、また利用するかもしれないと思うなら保存しておく必要がある。その保存された情報を、**ファイル(file)**と呼ぶ。

コンピューターでは、情報をすべてファイルという形式で記憶装置、例えばハードディスク、USB フラッシュメモリー(☞**第18章5、7、8節**)、DVDなどに保存する。Wordのような道具自体も情報であるから、使う前は、ファイルという形式で保存されている。

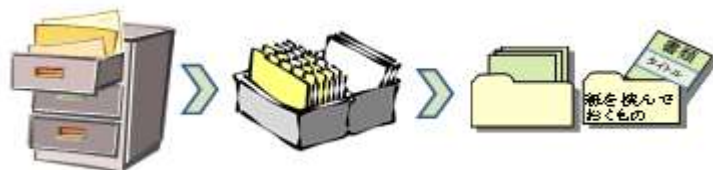
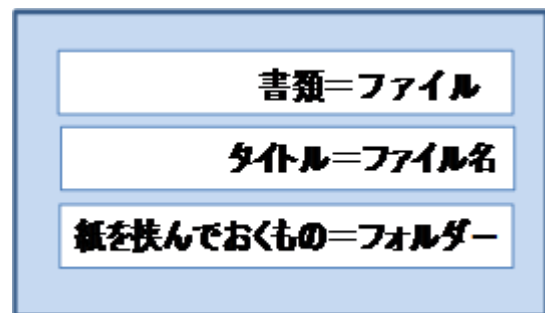
パソコンの中にどのようなファイルがあるかを、一覧表に表示してみたり、名前の変更や削除などを行うためのウィンドウを**エクスプローラー**¹という。

2. フォルダー

たくさんのファイルをコンピューターの中にばらばらな状態で入れておくことは、そのファイルを利用しようとした際にとっても不便である。そこで、引き出しのような箱を作って、その中に入れて整理しておく。こうすれば、ファイルを意味や種類で分類して保存しておくことができるのでとても使いやすくなる。

このように、記憶装置の中に、ファイルを分類して保管するためのソフトウェア的な入れ物(区分け)を

フォルダーという。



¹ インターネットで学習する IE (インターネット・エクスプローラー) とは違う。

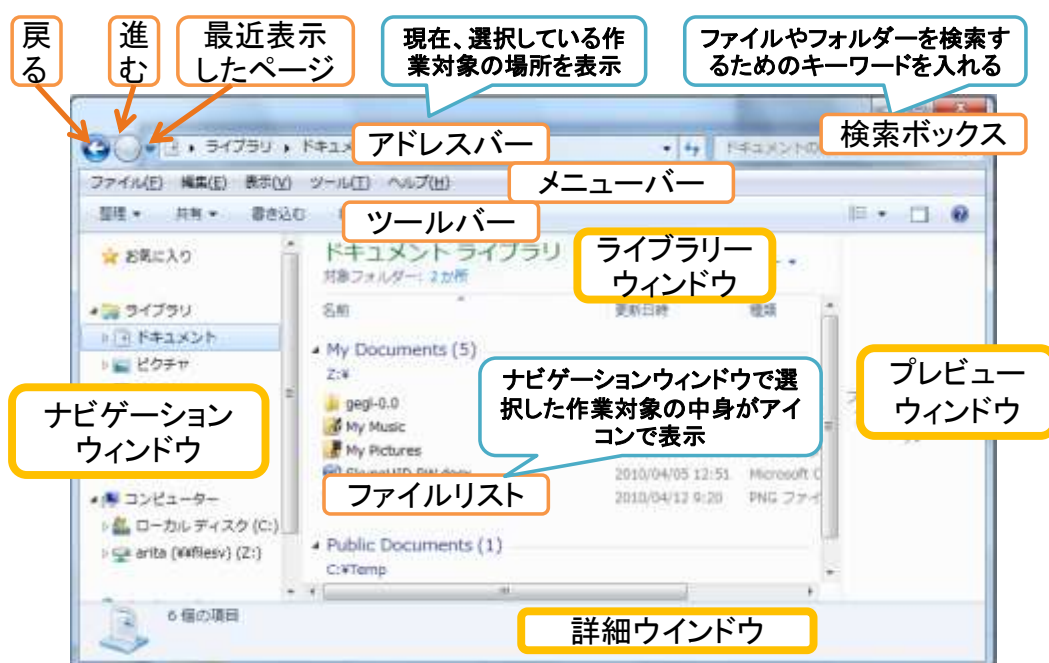
3. エクスプローラーの構造

起動するにはタスクバーのエクスプローラーをクリックする²。



ナビゲーションウィンドウは、四つのカテゴリーに分かれている。

- ① **お気に入り** 《ダウンロード》はユーザーがインターネットからダウンロードしたファイルを一時的に保存したファイルが表示される。《デスクトップ》はユーザーがデスクトップに配置したアプリケーションソフトやファイルが表示される³。そのほかに《最近表示した場所》がある⁴。
- ② **ライブラリ** 《ライブラリ》に登録されたフォルダーやファイルにアクセスするとき使用する。初期設定で《ドキュメント》、《ピクチャ》、《ビデオ》、《ミュージック》が用意されている⁵。
- ③ **コンピューター** 内蔵しているハードディスクや、セットしているメディアにアクセスするとき使用⁶。
- ④ **ネットワーク** ネットワーク上のコンピューターにアクセスするとき使用。



ナビゲーションウィンドウの《ライブラリ》を選択すると、ファイルリスト枠に中身がアイコンで表示される。メニューバーは **[Alt]** キーを押すと表示される。

² その他の起動方法もある（**第20章演習1**）。

³ 本学では、デスクトップに保存してもログオフすると消失する。

⁴ 本学は削除してある。

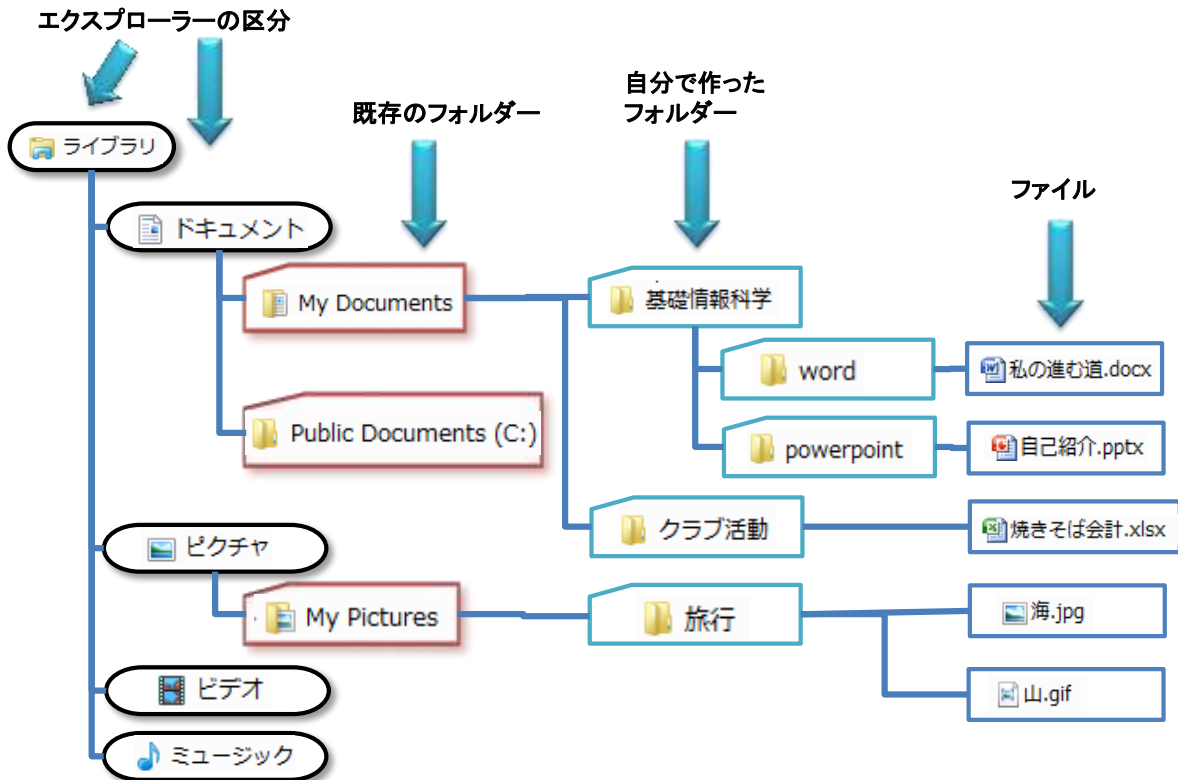
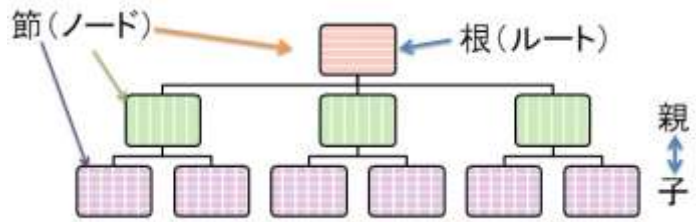
⁵ 本学は個人専用フォルダーが設定されている。

⁶ 本学は個人専用フォルダーがここから見える。

4. ファイルの整理

物事の関係を示すとき、木のように、一つの根から分岐によってたくさんの枝に分かれた構造で示すことができる。この

構造を、『**木構造**』という。木構造は、親子関係や包含関係を表す場合によく使われる。木構造で最も元になる部分が、**根(ルート)**である。

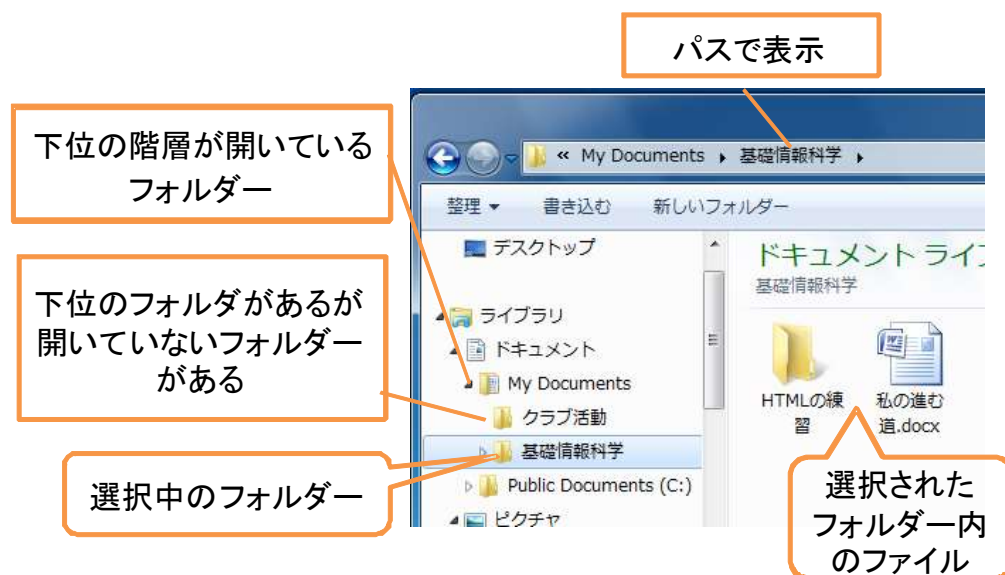



《ライブラリ》は、個人のファイルを保存する場所である。ファイルを保存する場合、一箇所に全部入れておくと、見にくいし、探すのに苦労する。《ライブラリ》の中には、《ドキュメント》、《ピクチャ》、《ビデオ》、《ミュージック》の区分があらかじめ用意されているので利用しよう。《ドキュメント》の中に〈MyDocuments〉と〈PublicDocuments〉がある。〈MyDocuments〉は個人のファイルを保存している場所である。〈PublicDocuments〉はネットワークでつながったパソコンからも見える場所である⁷。

〈MyDocuments〉にすべてのファイルを入れずに木構造のフォルダーを構成し、その下にファイルを置くようにしよう。

⁷ 本学では、教室内のパソコンで共用できる。

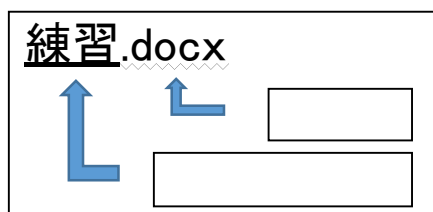
自宅のようにコンピューターを個人で使用する場合は、ファイルを、〈マイドキュメント〉というフォルダーに保存するとパソコンの中のハードディスクに置かれる⁸。しかし、大学のコンピューターの場合、個人用のファイルは、ネットワークでつながった先にあるサーバーというコンピューターの中に個人専用フォルダー(☞**6節**)がある。以下は本学の場合。



エクスプローラーで見るときは、階層を順番にたどり作業対象を選択する。フォルダーアイコンは書類入れのような絵柄  で表されている。フォルダーをクリックすると、右側に含まれるフォルダーやファイルが表示される。フォルダーをダブルクリックすると下位のフォルダーが下段に表示される。一つのフォルダーの中には、同じファイル名のファイルは一つしか入らない。

5. ファイル名と拡張子

ファイルには、内容がわかるように名前を付ける。この名前をファイル名といい、半角も全角も用いることもできる。Windows (☞**第19章4節**)では大文字・小文字の区別をしない⁹。



ファイル名の後ろには、そのファイルを作ったソフトウェア(☞**第19章1節**)が何であったかをコンピューターが区別するために、「.」

⁸ 1台で使用するパソコン(OS:Windows7)でも、ユーザーごとの「ドキュメント」に「マイドキュメント」とユーザー共通の使うための「パブリックのドキュメント」と二つの保存する場所がある。

⁹ ウェブサイトを作成する場合は、全角は使えない。半角英字の大文字小文字も区別する。文字列の長さは拡張子を含めて30文字まで。

(ドット)と、拡張子という英字で 3～4 文字の記号が自動的に付く。この拡張子により、ファイルを作ったときと同じソフトウェアを使ってコンピューターがそのファイルを開くことができる。ファイルを指定するだけで自動的にファイルを生成したソフトウェアが起動する仕組みになっているので、もしも、拡張子を変えてしまうと、コンピューターはそのファイルを正しく開くことができなくなる。だから、ファイル名は、ファイルを開かずに名前を自由に変えることができるが、拡張子を変えてはならない。拡張子の意味をもっとよく理解するためには、第20章でさらに勉強しよう。

エクスプローラーを使って個人専用フォルダー¹⁰を調べてみると、今まで自分で作成したいくつかのファイルがあることがわかるだろう。それを見ると、自分で付けたファイル名のあとに拡張子が付いていることがわかる¹¹。

表1 拡張子とその意味

拡張子	拡張子の元になる単語	ファイルの種類
docx	DOCument	Microsoft Word で作成した文書
bmp	BitMaP	Windows 専用の画像ファイル
xlsx	eXcel Sheet	Microsoft Excel で作成した表
exe	EXEcutable	実行可能なファイル
pptx	PowerPoinT	Microsoft PowerPoint で作成した文書
com	COMpact	実行可能なファイル EXE よりコンパクト
txt	TeXT	テキストファイル
html	Hyper Text Markup Language	Web ページ

6. ドライブ

エクスプローラーの《コンピューター》は、ユーザーが操作しているパソコンそのものを意味する。《コンピューター》を選択すると、パソコンが認識するメディアが**ドライブ**として表示される。ハードディスク、CD-ROM、DVD、USB フラッシュメモリー、フロッピー・ディスクなどの外部記憶装置は、装置ごとにドライブという論理的呼び方をして区別している。





各ドライブには、**ドライブ・レター**(大文字のアルファベット 1 文字)を付けて区別する。ドライブ・レターは、どのコンピューターでもほとんど同じである¹²。

¹⁰ 本学ではZドライブ。

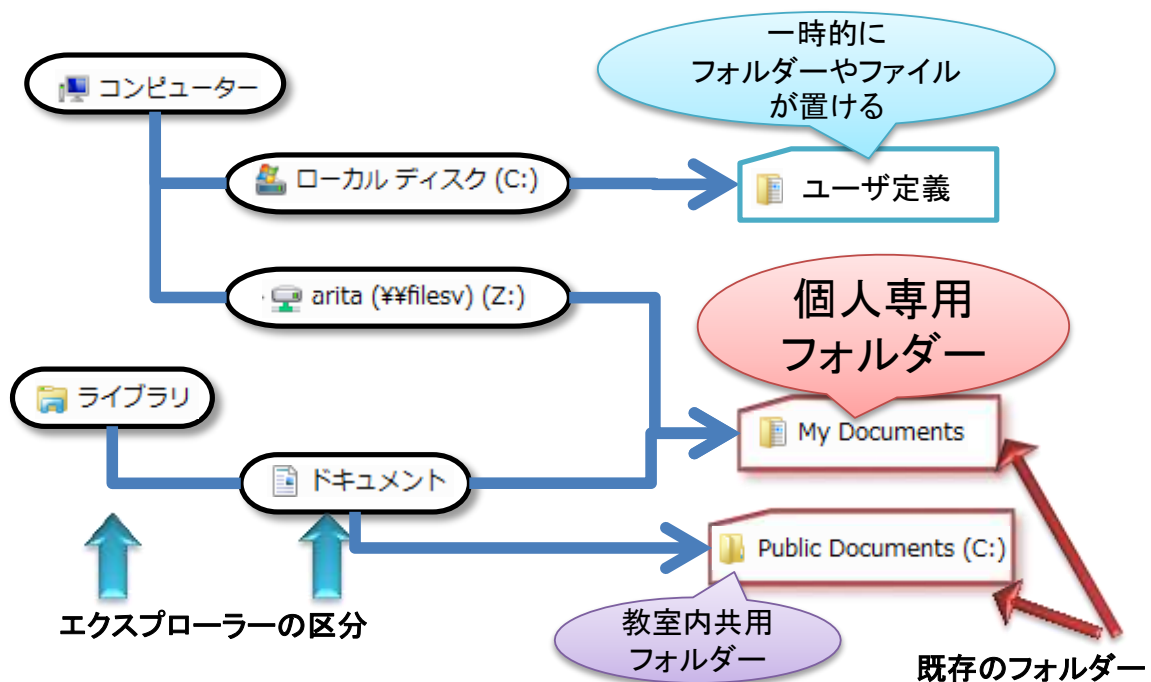
¹¹ ファイル名に拡張子が表示してあるのは、本学のオプションである。

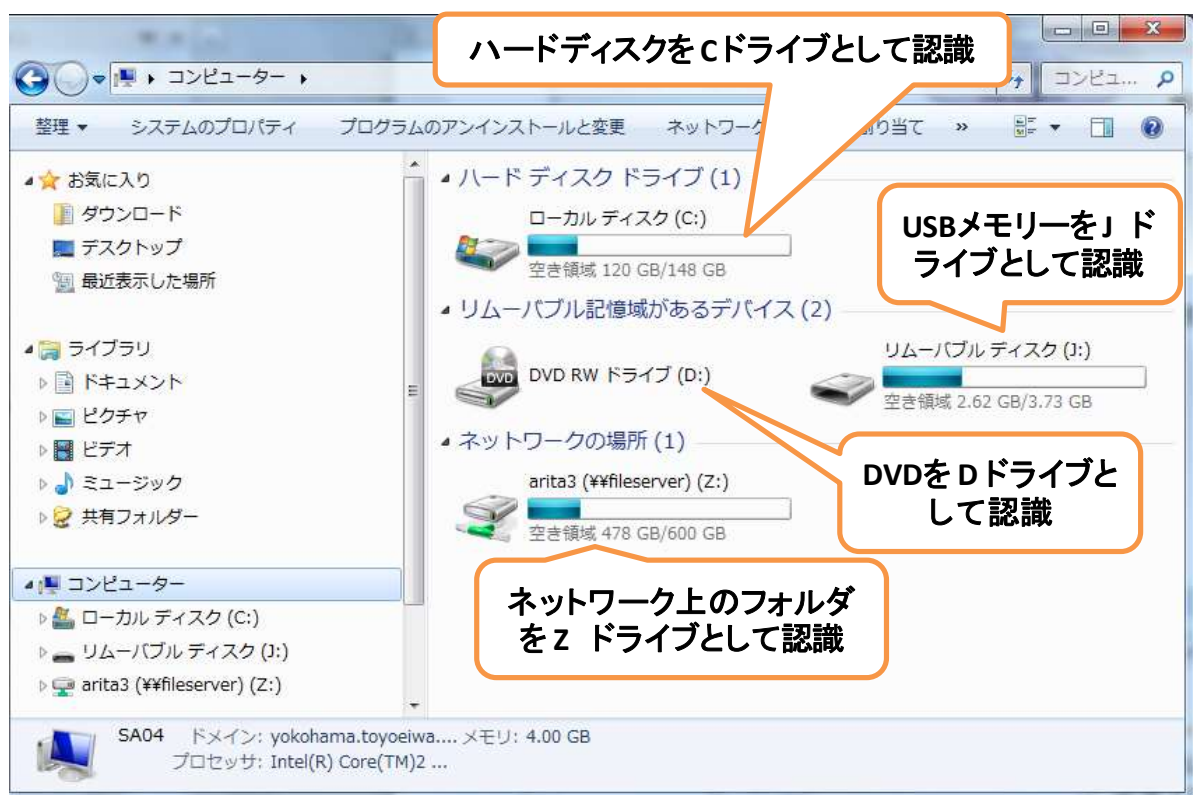
¹² Windows では、Aドライブは、NECの一部のパソコンを除き必ずフロッピー・ディスクである。Bドライブは昔の古いフロッピー・ディスク用に使われていた。

表1 ドライブ・レターと物理的な装置との対応(本学の場合)

ドライブ名		物理的装置	解説
Cドライブ		ハードディスク	Windows がインストールされている。
Dドライブ		DVD RW ドライブ	パソコンによってドライブ・レターは異なる。
Fドライブ		USB フラッシュメモリー	パソコンによってドライブ・レターは異なる。リムーバブルディスクと表示。
Zドライブ		サーバー上のハードディスク	サーバー上のフォルダーをドライブとして認識している。これをネットワークドライブともいう。本学では、〈My Documents〉などに使用。クラウドとして使用もできる。

〔Files¥ユーザー名 (Z:)〕 と書かれたドライブ (Zドライブ) は、本学のネットワークのサーバー上に個人用のデータを保存しておくために用意されたドライブであり、テキストでは「個人専用フォルダー」と表記している。個人で使うパソコンの環境に似せて〈My Documents〉、〈My Pictures〉、〈My Videos〉、〈My Music〉のフォルダーが用意されている。エクスプローラーで見た場合、《ライブラリ》の中にある〈My Documents〉と Zドライブの中〈My Documents〉は同じ場所である。個人で使用するコンピューターにはこのドライブはない。





7. クラウド

世の中をにぎわせている言葉「クラウド (cloud=雲)」であるが、最近、雲がブームになっているわけではない。ここで言う「クラウド」とは、クラウドコンピューティングを略したものである。それでは、なぜ「クラウド=雲」という言葉を使ったのか。一般的には昔からネットワーク図を表現するときに雲を使っているからと言われている。ちなみに、「クラウド」という言葉をコンピューターサービスと結び付けたのは米 Google エリック・シュミット CEO による 2006 年 8 月の発言と言われている。

「クラウド」とは、データを自分のパソコンや携帯端末などではなく、インターネット上に保存する使い方、サービスのことである。自宅、学校、会社、ネットカフェなど、様々な環境のパソコンやスマートフォンからでもデータを閲覧、編集、アップロードすることができる。

本学のZドライブもクラウドで以下の URL から使用できる¹³。(👉 **演習1**)。

<https://zdrive.toyoeiwa.ac.jp>

¹³ 本学では Proself を使用

演習

1 Zドライブをクラウドで使用してみる。

Zドライブ(MyDocuments も含まれる)に保存したファイルを自宅で見
 るためには、ブラウザ(InternetExplorer など)のウェブページを使う。
 大学で作ったファイルを自宅で開ける。⇒ダウンロード
 自宅で作ったファイルを MyDocuments に保存する。⇒アップロード

① IE(InternetExplorer)を開き、<https://zdrive.toyoeiwa.ac.jp> と
 アドレスバーに入力する。

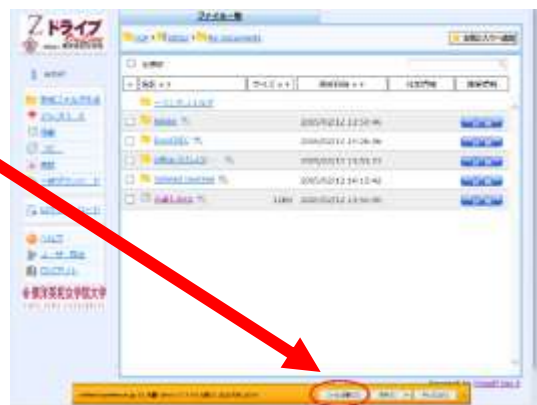
② Zドライブのページが表示される
 ので e-pass と同じユーザーID と
 パスワードを入れ、ログインボタン
 をクリックする。



③ Mydocuments の
 フォルダをクリックして開く。

④ ファイルが見えるので、クリックする。

⑤ 画面下部に、**ファイルを開くか
 保存**するか問い合わせてくるの
 で、**ファイルを開く**をクリックする。



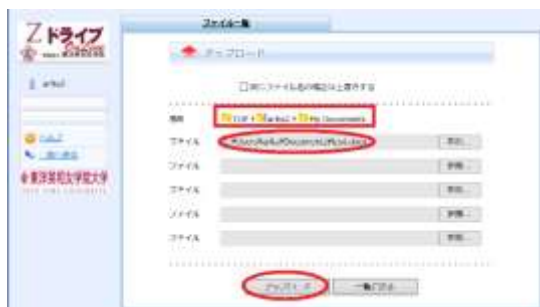
⑥ 内容が見える。内容を修正する
 ときは、**編集を有効にする** ボタ
 ンをクリックする。

⑦ 出来上がったファイルは、いったん
 自分のPCに保存する。

⑧ 自宅から大学のZドライブにコピーするときは左側メニューをクリックす
 る。

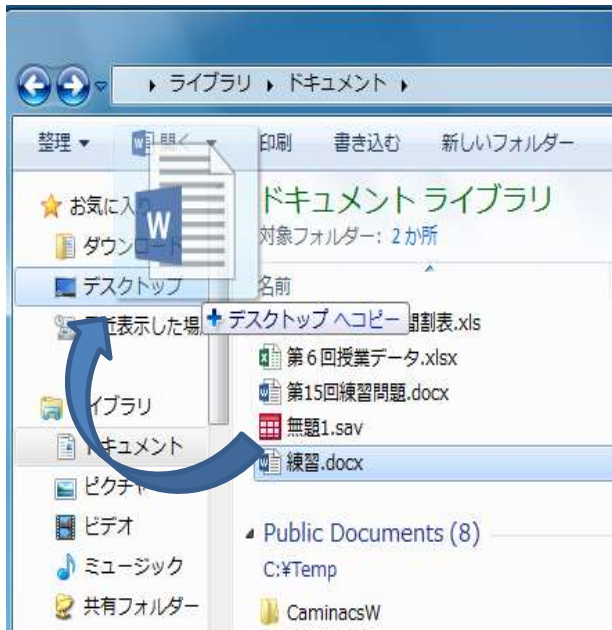
⑨ ファイルを指定し、アップロード
 ボタンをクリックする。

場所と書かれたフォルダーにコピ
 ーされ、大学で見えるようになる。



2 「MyDocuments」にあるファイルを、 「デスクトップ」にコピーする

- ① エクスプローラーの「MyDocuments」フォルダーのウィンドウを開く。
- ② すでに作った **練習.docx** のファイルをドラッグし、
- ③ ナビゲーションウィンドウ(画面左側)の **デスクトップ** でドロップする。

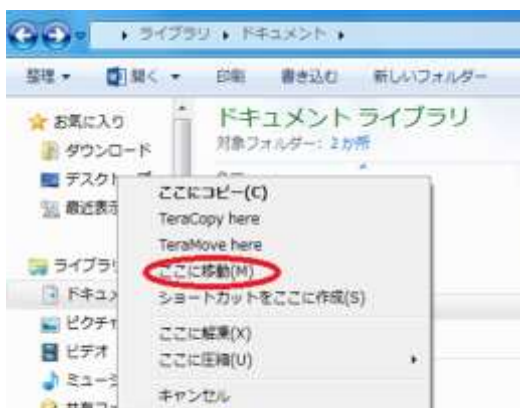


※マウスをコピー先のデスクトップに合わせて「+デスクトップへコピー」と吹き出しが出るので、コピー先を確認してから、ドロップしましょう。

※同じディスク間の場合には「移動」になる。気を付けましょう。

3 「MyDocuments」にあるファイルを、 「デスクトップ」に移動する

- ① 「MyDocuments」フォルダーのウィンドウを開く。
- ② すでに作った **練習.docx** のファイルを**右ドラッグ**し、
- ③ ナビゲーションウィンドウの **デスクトップ** でドロップする。
- ④ プルダウンメニューが出るので、「ここに移動」を選ぶ。



※大学のデスクトップにあるファイルは、ログアウトすると消える。
ご注意！

コラム ファイルの保存

大学で作ったファイルを自宅で見たいときにはいくつかの方法があります。

- ①クラウドにあるファイルをダウンロードする。
- ②USBフラッシュメモリーに保存して持ち帰る。
- ③自分あてにEメールを送る。



個人専用フォルダーに保存したものは、クラウドとして、自宅で見えます。ただし、自宅でインターネットが使えなければ見えません。こんなときは、USBフラッシュメモリーにコピーする方法がおすすめです。こうしておけば、USBフラッシュメモリーを持ち帰って、再び大学に持ってくる間にそのUSBフラッシュメモリーが仮に壊れてしまったとしても、書きかけのファイルが大学にあるので、家で書いた部分は仕方ありませんが、一からレポートを書き直す事態は免れます。また、自宅でインターネットが使えるなら、メールの添付ファイルにして、自分宛のメールを出すことも良いでしょう。ファイルは二重三重にして保存しておくことが肝要です。

